

---

# コードギアス・センチネル

にゃん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コードギアス・センチネル

### 【Nコード】

N4017BA

### 【作者名】

にゃん

### 【あらすじ】

センチネルをこよなく愛する少年はバグったように死んでしまう。しかし、美しく麗しい それでいて清楚な女神様の計らいでコードギアスの世界を楽しませていただける事に、、、

## 始まり

皇暦2010年8月10日の出来事である。

神聖ブリタニア帝国は日本に宣戦布告した。

当時の兵力は防衛の域を出ないものだったため、敗戦した。

巨大人型兵器 KMF 通称ナイトメアフレームの前に成す術もなく散っていった。

何故、こんな事を解説しているかというと 少し時を遡る必要がある

「カッコイイ〜!!さすがセンチネルシリーズだ!」

部屋の中で歓喜している少年の手に握られているのは、わざわざ自作したプラスチックモデルだ

「いいよなあ。このフォルム。ゴツゴツした感じがたまらん!!」  
いわゆるガンダムオタクという人種だ

- メキメキ -

発ててはいけないような音を発てプラスチックモデル その様はまるでバグを起こしたゲームのグラフィックだった

「は、あ、?」

明日は我が身という言葉通り自身の身体もバラバラになる  
少年は理解が追い付かず、そのまま意識を失った

「ごめん。ごめん」

自室でサイコロにされた自分を見ながら少年は何故、謝られているか考えた

「、、!もしかして、俺が死んだのって、、」

「ざっつら〜いと!!私、、、やっちゃったんだぜ!」

「、、、、どうすんの？コレ」

自分の死体を指差し、問う

「治したい？」

「当たり前だろ！！頑張つて、頑張つて作つたのに！！」

「そつちかよ！！、、まあソレも含めて私の落ち度だし、、治してあげましょう！！」

「、、、、」

「ん？どつたの？」

「治すとか治さないとか、アンタ何もんだよ」

「よくぞ聞いてくれました！！私は何を隠そう神様なのでえす！！」

「鬱陶しい性格した神様だな」

「あれあれ？反応がいまいっちんぐマチコ先生だね」

「古いし、寒い。論より証拠だよ、、世の中」

「さばさばした性格だねえ。まあ、今すぐ治る訳じゃないし、、どこかに行こう！！」

「海に行こうみたいなのりで言われてもな、、どこ行くんだよ」

「ううん、、。あつ！私コードギアスの世界に行きたい！けつていい」

「はあ、、。自己中心的な思考回路だな」

「そりゃ、神ですから」

えっへんと言わんばかりの格好はあまりにも神とは言えなかった

「で、行くとも決まったわけだし、、私は無双する感じがいいな？」

「本音は？」

「死んだりするとめんどくさい」

「ぶつちやけたな」

「何にする？何にする？ナイトメアフレームは何にする？」

「鬱陶しい。、、そうだなセンチネルの機体がいいな」

「、、。じゃあ無双しやすいように色々弄る」

「何だよ、、あからさまに嫌そうな顔して」

「何でも無い」

「まあ良いや。原型留める程度に頼むよ」

「ああ。つまんない。厨二臭いアイデア出してくれると思ったのに、  
、このまま死んでればよかったのに」

「何だと!!」

少年が走り出した途端 床が抜け 少年は何処とも知らぬ場所へと  
落下した

## 始まった

、、、以上が説明しなければならない理由である

「スゲー！」

少年の前には確かにセンチネルシリーズの機体が鎮座していた

「頑張ったからな！！」

「何で居るんだよ」

「いいじゃないか！元々、私が来たかったんだし」

「、、、ところで何を弄ったんだ？」

「制約を無くした。なんと！ALICEさんとイチヤイチャできるよ！」

「、、、、」

相変わらずの鬱陶しさだと少年は落胆する

「どうすんの？私的には第三勢力となって介入するのが一番グツとくるんだけど」

「それじゃあラクシャータが手に入らないだろ」

「あんな年増要らないさ！！私がいるからな！」

「自信満々だな」

「ソレ造ったの私ダゾ？」

ウインクしながら指を指す　つまり、機体を造ったのは自分だ。

技術者など要らない、という事だった「死んだらお前の責任だぞ」

「分かってる。分かってる」

かくして、話がまとまってしまった

・

EX-S 一機 FAZZ 四機 Zplus 四機 MK-V

一機 という無双をしやすいように数を揃えたのに 構成メンバ

―二人という悲しい現実である

「第三勢力はいいけどさ、人集まりにくそうじゃないか？」

「、、宗教と同じだ」

「？何だそれ」

「ブリタニアにつくか、黒の騎士団につくかのどつちかしかないから日本人は黒の騎士団についたんだよ。お馬鹿ちゃん」

「、、なるほどね」

我慢我慢と心に言う

「そういえば今何年？」

「2017年」

「は？」

「そういえば今日はクロヴィスが殺される日だぞ。でも、ユフィたんは助けがないとなー！」

バカな事だ。言ってしまったえば気が早かった

「唐突すぎる！！現在地は？」

「ここか？ここはな新宿の地下だ。安心しろ！後もう数分でブリタニア軍が来るぞ」

安心したのが間違いというものだろう 出会ってからの会話で少し、いや、凄く変だということが分かっていたのにと少年は自身の愚かさを嘆いた

「ALICEがいるだろ！泣くな！ヘタレめ」

「全部お前のせいだろー！！」

無駄な喧嘩をしていると頭上から多数の悲鳴が聞こえ始めた

「ヤバイー！！」

少年はEX-Sに乗り込む

『EX-S 起動します。パイロットの固定化をします。、、完了。ALICEシステムの起動も滞り無く、完了しました』

始まった(後書き)

「今回は残念だが人物紹介だ。私の事をたくさん知ってくれたまえ。  
フハハハ」



## 人物紹介（前書き）

残念ながら大気圏外の戦闘はありません

## 人物紹介

種野 亮

16歳

ゴツゴツした物が好きでセンチネルをこよなく愛する少年  
無駄な事を好み 誰からも理解されないことが自分の行動理由にな  
る事が多い

名前はリヨウ・ルーツから

神

女性である事以外話さない 年齢は永遠の16歳だという  
変な事を好み ややレズチックな性格をしている  
暇を嫌っていて、いつも何か起こそうとしている

A L I C E

E X - S に積まれた人工知能 パイロットの感情 特に恋愛感情を  
読み取るのに特化されたパチもん A L I C E  
改造されたため、E X - S は分離からの合体も可能になっている

F A Z Z

重装甲の割りに飾りだった部分が多い為、稼働出来るよう改造され  
た機体 現在乗り手無し

Z p l u s M K - V は大した改造はされなかった、、、、

## スザクいじめ

「戦闘が始まったとはいえ、何処にいるかまではさすがに解らないな」

『この先の頭上に敵機がいます』

「イレブン風情が！」

（シンジユクゲッターを壊滅など容易い。武器を持たぬ者を殺すのは容易いな！）

・ピピピ

「なんだ？、ぬわっ！」

いきなり地面から手が突き出るとグラスゴーの足を掴み、地下へと引きずり落とす

「な、何者だ！」

赤い二つの目のようなものが光る

それは静かに近づくとグラスゴーを完全に沈黙させた

「、、、何をしたんだ！ヤツは！モニターにも何も映らん。どうなつてーグシャ

.....  
『敵機沈黙』

「えげつないな」

『仕方ありません。戦争ですから』

「こんなのALICEじゃない」

『感情移入しやすいように設計されました』

「、、、まあいい。次だ次」

ブースターで上に昇る

「、、、どうやらルルーシュは動いているようだな」

『このままでは出番が無くなりそうです』

「、、、スザクを叩く」

『了解』

（ランスロットなら初舞台に丁度良い）

『三時の方向に敵機、、、御望みの彼です』

「よし！やるぞ。売名！！」

ブースターの威力を頼んだ体当たりを仕掛ける

「ALICE。オープンだ。」

『、、、完了』

「よお！！お前がスザクだな！」

「、、、何者だ！何故僕の名前を知っている！」「細かい事を気にすんな。エネルギーが尽きるまで戦おうじゃねえか！！」

「いいだろう！」

『来ます』

「分かっている」

「グッ、、なかなかの遣り手だねえ。あの気持ち悪いの、、」

「気持ち悪いかはさておいても、、スペックなら互角かそれ以上、、」

「スザクくんを呼び戻してちょーだい。ランスロットを此处で壊されるわけにはいかないからね」

「帰投、、、ですか？」

「なんだ？帰るのか？」

「見逃してはくれないんだろう？」

「いいや。今回は売名目的で来たからな」

「、、、変わってるんだな」

「よく言われるよ」

『良かったのですか』

「良いんだ。ランスロットは破壊しないにこしたことはない。帰るぞ」

・

「帰ったぞ。、何で連れて来た？」

「ん？クロヴィスが死亡するという話はいいけどさ。第三勢力となつて動くとなると確実に必要になると思つて」

「私を監禁するという事がどれほどの罪か分かっているのか！」

「別に逃してもいいけど、ルルーシュちゃんに殺されちゃうかもよ？」

「グ、分かった。ただし！私の身は守ってもらうぞ！」

「、死体は？死体はどうした？」

「そこらへんに居た奴をそれっぽくしたからモウ！マン！タイ！」

「自国の言葉くらい尊重しろよ」

「細かい事を気にすんな。エネルギーが尽きるまで戦おうじゃねえか！！」

「いいだろう！」

## スザクいじめ（後書き）

「まだ支離滅裂だな！」

「仕方がないだろ。きっと作者がコミュ障なんだ」

「、、かわいそうだと思えないくらい他人事だな！」

「まったくだ。しかし、進歩の無い作者は死んだ方がいいぞ」チラッ

「その通り」チラッ

善処します

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4017ba/>

---

コードギアス・センチネル

2012年1月10日20時49分発行